

3月25日

原水協・平和委員会が抗議

ロシアのベラルーシ核配備

ロシアのブーチン大統領がベラルーシへの戦術核兵器の配備を表明したことに対し27日、平和団体などが抗議声明・談話を発表しました。

原水燃禁止日本協議会は、安井正和事務局長の談話をロシア大使館に送りました。

核兵器の使用は全人類に惨害をもたらす最悪の犯罪

であり、核兵器国はその危険性を回避するためには、核兵器禁止条約への加入を図るべきだと指摘。ロシアに対し、他国へ核の移譲を含むいっさいの核使用と威嚇を停止し、参加、外交による平和の実現の道を立つべきを求めていました。

ウクライナでの戦闘停止、撤退と紛争の和平解決の努力を開始するよう要求して

日本平和委員会は声明を発表しました。

岸田政権は、米国の「拡大化ウラン弾」供与と、ロシアによるベラルーシの戦術核兵器配備に抗議し、即時停戦と関係国との話し合いでによる解決を求める声明を発表。岸田首相とロシア、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ各大使館に声明を送付しました。

声明では、劣化ウラン

広島県原水協は、莫政府のウクライナへの「劣化ウラン弾」供与と、ロシアによるベラルーシの戦術核兵器配備に抗議し、即時停戦と関係国との話し合いでによる解決を求める声明を発表。岸田首相とロシア、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ各大使館に声明を送付しました。

G7サミット議長国である日本政府は、「唯一の戦争被爆国として、核兵器廃絶の先頭に立つ」として、禁止条約に署名・批准し、参加を各國に求めています。

広島県原水協が声明

G7サミット議長国である日本政府は、「唯一の戦争被爆国として、核兵器廃絶の先頭に立つ」として、禁止条約に署名・批准し、参加を各國に求めています。